

香川県におけるシロイチモジヨトウの殺虫剤感受性について

三浦靖・渡邊丈夫・牛田泰裕

香川県におけるシロイチモジヨトウの薬剤感受性の実態について調査した。

2 齢幼虫の各種薬剤に対する感受性は、薬剤の系統ごとにみると、ネライストキシシン剤に対しては安定して高かったが、その他の系統の剤については、個々の剤および採集地域により効果に振れがあった。有機リン剤ではクロルピリホスメチル、クロルピリホス、PAP および CYAP が、BT 剤ではチューリサイド水和剤、未登録であるが XenTari 顆粒水和剤および NN-9401 顆粒水和剤が、脱皮阻害剤ではクロルフルアズロンおよびフルフェノクスロンの効果が比較的高かった。カーバメート剤の効果は他の系統の剤に比べ劣った。合成ピレスロイド剤については地域間で明瞭な感受性の差が認められた。

3 齢幼虫に対しては、2 齢幼虫に効果が認められたほとんどの剤で効果が認められ、全国的に問題になっている抵抗性の個体群とは異なった様相を示した。

合成ピレスロイド剤 2 剤に対するシロイチモジヨトウ 2 齢幼虫の濃度反応を調べた結果、感受性の高い個体群と感受性の低い個体群の交配によって得られた個体群の反応が、感受性の低い個体群と同様な反応を示した。

キーワード:感受性,殺虫剤,シロイチモジヨトウ